平成31年度 徳島大学大学院 総合科学教育部 Ⅱ期 入学試験問題

博士前期課程

臨床心理学専攻

臨床心理学分野

受験科目名:臨床心理学

(一般選抜及び外国人留学生特別選抜)

【注意事項】

- 1 係員の指示があるまで問題冊子を開いてはならない。
- 2 試験問題は、表紙 (この紙) 1枚, 問題・解答用紙6枚の, 合計7枚である。
- 3 解答開始後, 各問題・解答用紙の「受験番号」欄に受験番号をはっきりと記入すること。
- 4 問題は合計5間である。5問ともすべて解答すること。
- 5 解答は指定された解答欄に記入すること。
- 6 配布した用紙はすべて回収する。

受験番号	•

徳島大学大学院総合科学教育部博士前期課程臨床心理学専攻 臨床心理学 その1

第1問 次の英文を読み,下の問1~6に答えよ。

The distribution shown in Figure (a) came from what we refer to as a normal distribution. The distribution in Figure (b) is referred to as bimodal, because it has two peaks. The term bimodal is used to refer to any distribution that has two predominant peaks, whether or not those peaks are of exactly the same height. If a distribution has only one major peak, it is called unimodal. The term used to refer to the number of major peaks in a distribution is modality.

Next consider Figure (c) and (d). These two distributions obviously are not symmetric. The distribution in Figure (c) has a tail going out to the left, whereas that in Figure (d) has a tail going out to the right. We say that the former is negatively skewed and the latter positively skewed. (Hint: To help you remember which is which, notice that negatively skewed distributions point to the negative, or small, numbers, and that positively skewed distributions point to the positive end of the scale.) There are statistical measures of the degree of asymmetry, or skewness, but they are not commonly used in the social sciences.

An interesting real-life example of a positively skewed, and slightly bimodal, distribution is shown in Figure (e). These data were generated by Bradley (1963), who instructed subjects to press a button as quickly as possible whenever a small light came on. Most of the data points are smoothly distributed between roughly and hundredths of a second, but a small but noticeable cluster of points lies between and 70 hundredths, trailing off to the right. This second cluster of points was obtained primarily from trials on

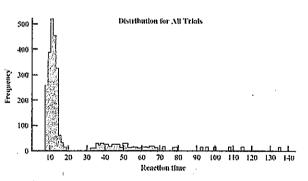


Figure (e) Frequency distribution of Bradley's reaction time data

which the subject missed the button on the first try. Their inclusion in the data significantly affects the distribution's shape. An experimenter who had such a collection of data might seriously consider treating times greater than some maximum separately, on the grounds that those times were more a reflection of the accuracy of a psychomotor response than a measure of the speed of that response. Even if we could somehow make that distribution look better, we would still have to question whether those missed responses belong in the data we analyze.

出典: D. C. Howell, Statistical Methods for Psychology (2010), 7th edition より一部改定して抜粋

受験番号

徳島大学大学院総合科学教育部博士前期課程臨床心理学専攻 臨床心理学 その2

問1 Figure (a)~(d)を表すのに最もふさわしいグラフを下記(1)~(4)から選択し、その番号を記入せよ。 ただし、同じ番号を複数回記入しないこと。

Figur	e (a)	Figure (b)	Figure (c)	Figure (d)	-
(1) Score	(2) 5 0 5 10 15 2 Score	(3) 1	25 4.0 -2.4 -0.8 0.8 Scote	00 <u>7 / 1</u> 2,4 4,0
問2	下線部①~③に入	る英単語を本文中から見	つけて記入せよ。	~	
①			3		
	,				
岡 4	Figure (c) E (d))を瞰別する方法を本义(こ即して簡潔に説明せよ。		
問5	下線部⑤~⑦に入	る数字を記入せよ。			• ;
<u> </u>	. (6	<u> </u>		
問6	下線部⑧を和訳せ、	t.		• , , ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	
<u> </u>				·····	

受験番号

徳島大学大学院総合科学教育部博士前期課程臨床心理学専攻 臨床心理学 その3

第2間 次の $1\sim20$ は、心理学に関連する人物名である。これらとそれぞれ関連が最も深い語を、下の語群 a \sim z のうちから一つずつ選び、該当する記号を解答欄に記入せよ。

1. Bandura, A.

2. Kempe, C. H.

3. Cattell, R. B.

4. Fechner, G.

5. Yasuhito, K. (木下 康仁)

6. Lewin, K.

7. Green, R. C. & Kreuter, N. W.

8. Spearman, C. E.

9. Broadbent, M. E. P.

10. Fonagy, P.

11. Koffka, K.

12. Festinger, L.

13. Holmes, T. ff. & Rahe, R. H.

14. Thorndike, E. L.

15. Ainsworth, N. W.

16. Seligman, M. E. P.

17. Marcia, J. E.

18. Bruner, J. S.

19. Hochschild, A.

20. Atkinson, R. C. & Shiffrin, R. M.

語群

a. 精神物理学

b. 感情労働

c. アイデンティティ・ステイタス

d. ANOVA モデル

e. 自尊感情

f. フィルターモデル

g. 学習性無力感

h. M-GTA

i. 自己効力感

j. 人間性心理学

k. ストレンジ・シチュエーション法

1. 認知的不協和理論

m. 16PF

n. 減衰モデル

o. プリシード・プロシードモデル

p. KT法

q,社会的再適応評価尺度

r. 多理論統合モデル

s. 言語獲得支援システム

t. 教育測定運動

u. 殴打された子の症候群

v. 境界人

w. メンタライゼーション

x. 記憶の多重貯蔵モデル

y. 2因子説

z. ゲシュタルト心理学

解答欄

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15.	16	17	18	19	20
記															,	-				
号																				

小計

受験番号	
------	--

徳島大学大学院総合科学教育部博士前期課程臨床心理学専攻 臨床心理学 その4

第3問 次の文章を読み、下の問1~3に答えよ。

A さんは、「栄養教育に関するビデオの視聴が、小学生の食 生活に及ぼす影響」について研究しようと考えた。そこで, 研 究協力の得られたある小学校2年生の2クラスを対象として、 介入研究を行うことにした。対象となる2クラスに事前テスト を行ったところ、2群間の食生活には顕著な差が認められた。 そこで、事前テストにおいて食生活水準の低いことが示された クラスを介入群としてビデオ視聴による介入を行い, 一方, 食 生活水準の高いことが示されたクラスは統制群として、食生活 や食行動とは関係のないビデオを視聴させた。その後、事後テ ストを実施したところ、両群の結果は Figure 1 のようになり、

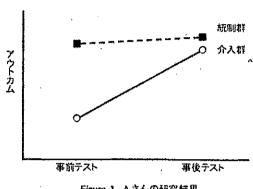


Figure 1. Aさんの研究結果

介入群については食行動水準が望ましい方向に変化したのに対し、統制群については変化がみられなかった。

問	1 研究におけるアウトカムについて、介入群と統制群との間に事前テストの段階で既に差がある。	場合,し
	ばしば用いられる統計手法として共分散分析が挙げられる。共分散分析とはどのような手法か、	説明せよ

- 間2 A さんの研究結果 (Figure 1) について、介入による効果以外に、どのような解釈が考えられるか。 「テスト効果」(一度測定が行われていることによる影響)および「外的変化」(両群に共通した出来事 による影響)という、内的妥当性に関与する二つの要因の観点から、それぞれ説明せよ。
 - (1) テスト効果

(2) 外的変化

受験番号

徳島大学大学院総合科学教育部博士前期課程臨床心理学専攻 臨床心理学 その5

第4間 心理学に関連する、次の語 $1\sim20$ とそれぞれ関連が最も深い語を、下の語群 $a\sim z$ のうちから一つずつ選び、該当する記号を解答欄に記入せよ。

- 1. 心的外傷後ストレス障害
- 2. マインドフルネス・ストレス低減法
- 3. クライエント中心療法

4. 自由連想法

5. WISC-IV

6. 弁証法的行動療法

7. 外向一内向

8. 統合失調症

9. レスポンデント条件付け

- 10. 自閉スペクトラム症
- 11. 森田療法

12. アルツハイマー型認知症

13. 遊戲療法

14. ライフサイクル

15. 危機介入

16. 家族療法

17. エビデンス

18. 認知療法

- 19. アレキシサイミア
- 20. バウム・テスト

語群

- a. Erikson, E.
- b. Binet, A.
- c. Caplan, G.
- d. Pavlov, I. P.

- e. Kanner, L.
- f. Wechsler, D.
- g. 侵入症状
- h. レビー小体

- i. Jung, C. G.
- j. Rogers, C. R.
- k. パニック発作
- 1. 身調べ

- m. 自動思考
- n. Axline, V. M.
- o. Schneider, K.
- p. βアミロイド蛋白

- q. 精神交互作用
- r. Freud, S.
- s. 無作為化統制試験
- t. Sifneos, P. E.

- u. Baddely, A. D.
- v. 陽性症状
- w. システム・アプローチ
- x. Kabat-Zinn, J.

- y. Linehan; M. M.
- z. Koch, K.

解答欄

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
記												,								
号																				

小 計

受験番号	

徳島大学大学院総合科学教育部博士前期課程臨床心理学専攻 臨床心理学 その6

第5間 次の事例を読み、下の問1~3に答えよ。

A 君は中学 2 年生の男子。当初の主訴として語られていたのは神経性無食欲症と呼ばれる摂食障害である。 家族は母親(38歳), A君(14歳),妹(11歳)の3人家族。父親はA君が小学3年生の時に交通事故で亡くなった。中学生になり、食事が摂れなくなり、母親がいろいろな病院を訪ねた。無理をして登校していたが、学校は無

6図書:佐治守夫 改訂カウンセリン 実際) pp.167-195	グ 1992 放送大学教	育振興会 XIII~	-XV 治療面接(ス	フウンセリン
摂食障害について,説明せよ。		·		•
				ř
		•	·	V
· ·				
· A 君の状態をどのように考えるか。				
			,	
	•			
	,	ı		
				
A 君への心理療法としてどのよう	なものが考えられるか	。考えられるも	のをすべて挙げ	<u>۔</u>
		•		
	.	•		
•				
		·	•	
		·		
			小 計	